

憎しみと争いのスパイラルはもうたくさん!

国連事務総長が「ルワンダの悲劇」の再現を懸念する。この国の近況を、アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使が報告します。

写真 (アグネス大使と壁面写真) : ©日本ユニセフ協会/2014



武力衝突を逃れ、身重の体で森の中で生活していた女性。10日前に再開したばかりの保健センターで2日前に赤ちゃんを出産した(4月17日 ボサングア)



武力衝突で破壊されたボサングア旧市街のイスラム系住民居住区・商店街に残っていた落書き(4月17日ボサングア)

Central African Republic



修道院の敷地内に設置された仮設幼稚園・小学校・中学校で(4月18日 バンギ市内)



©UNICEF/Central African Republic

クローディアさんとメラニーちゃん(バンギの避難民キャンプに開設された予防接種クリニックの前で)

中央アフリカ共和国【ユニセフ現地事務所発(4月21日)】

ユニセフは移動式クリニックを開設し、避難民キャンプを回り、予防接種を実施しています。「焼き討ちにあったときに娘の予防接種カードも焼かれてしまいました。避難して4カ月。必要な予防接種ができていなくて心配でしたが、ユニセフのおかげで予防接種も受けさせることができて安心しました。私たちは、テント生活をしていますが、雨が降れば地面は泥沼同然です。家がないので娘を雨風からはなかなか守ってあげられませんが、予防接種で主な病気からは守ってあげられます」ユニセフは予防接種システムの復旧に力を入れています。システム全体が回復するまでは「移動式クリニック」で子どもたちを病気から守ります。

写真(下段): ©UNICEF/Central African Republic

Central African Republic

中央アフリカ共和国

●主要データ
面積: 623,000平方キロ(日本の約1.7倍)
人口: 452万5,000人(2012年)
5歳未満死亡率: (2011年)129/出生1,000人あたり
乳児死亡率: (2011年)91/出生1,000人あたり
初等教育就学率(2008-2011年*): 69%
低出生体重児出生率(2008-2012年*): 14%
*同期間内入手できた最近の年次のデータ
※データは主に「世界子供白書 2014」による
※地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。



いまだ混乱が続く中央アフリカ共和国を、4月16日から4月19日まで、アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使が訪れました。中央アフリカ共和国の状況をお伝えします。

職業訓練を受ける元兵士の子どもたち

中央アフリカ共和国は、飛行機の上から見ても緑豊かな国です。今の季節はマンゴーなどのフルーツも木々に豊富になり、土壌も豊かなので野菜なども容易に育ちます。鉱物資源も豊富に眠り、ダイヤモンド・金・ウランなども産出されています。その豊富な資源を国内の人々に還元できないのが今の中央アフリカ共和国です。

紛争の経緯

2013年3月、周辺国のイスラム系武装勢力の応援を受けた反政府組織セレカ(Seleka)が、首都バンギを制圧。キリスト教系のボジゼ大統領が追放され、イスラム教系のジョトディア政権が誕生しました。しかし、セレカによる暴力や略奪に対抗するために組織されたアンチ・バラカ(Anti-Balaka)との間で衝突が勃発。国内避難民は一時90万人にも達しました。9月に、セレカの解散が宣言されたものの、両勢力の衝突はやまず、ジョトディア大統領は2014年1月に失脚。首都バンギをはじめ多くの地域から、イスラム教系の住民が国内外各地に追いだされました。国連は、中央アフリカを、シリアや南スーダンと並ぶ「最優先で人道支援活動を展開すべき国」のひとつとして位置付けています。

今回の訪問では、2013年から続く紛争により犠牲になっていく子どもたちをたくさん見ました。最初に会ったのが、戦いに巻き込まれた元兵士の子どもたちでした。直接戦いに駆り出されたり、雑用係をさせられたり、兵士の食事の準備、

性搾取を受けた女の子たちもいました。ひとりの男の子は、「両親を兵士たちに殺され、武装勢力に加担させられた」と言います。兵士たちは村々を襲い、略奪、焼き討ち、子どもを連れ去りながら北部から南下していったそうです。彼らを武装勢力から解放したのはユニセフでした。ユニセフは、各勢力と地道に交渉を重ね、巻き込まれた子どもたちの解放を訴えかけているのです。

北部ファティマ出身の女の子は読み書きができたために兵士の手紙を代筆したり、読み上げたりする仕事をさせられていたと言います。「兵士たちは毎日のように好きな子を選びレイプしていた」と話してくれました。この少女もユニセフにより解放されたのです。

武装勢力から解放された子どもたちは、「リハビリテーション・センター」で、職業訓練を受けながら、社会復帰を図る準備をしていました。



【右】Tシャツにプリントを付ける方法を学ぶ子どもたち

【左】ミシンを使い、裁縫を習う少女たち



写真: ©日本ユニセフ協会/2014

unicef news Vol.242 ユニセフ・ニュース 2014 SUMMER



©UNICEF/NYHQ2005-0597/Estey
【表紙写真】: ユニセフが提供する「遊び」の場でサッカーに興じる男の子たち(インドネシア)

特集-1: アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使 中央アフリカ現地レポート
憎しみと争いのスパイラルはもうたくさん!1

特集-2: **命を支える水と衛生について考える**5

特集-3: 出生登録
人生のパスポートを持たない子どもたち9

世界の現場から-①: ラオス11
米作りが盛んでも栄養不足? (ラオス)
世界の現場から-②: リベリア13
紛争から立ち直った国(リベリア)

まんが ユニセフ早分かり講座: 児童婚15

VOICE: 「未来」の担い手として「今、この時代」に発言したい!17

国内情報: ユニセフ相続セミナー/クレジットカード/かざして算金/One Minute Video/第32回ラブウォーク報告19

地域組織の活動から21
インドネシア: マラリアを撲滅した島22



主食はキャッサバ。これにキャッサバの葉をじっくり煮てかけたり、ペースト状のピーナッツをかけたりして食べます。ピーナッツを1kgに500XAF(セーファフラン)=約106円。今回の紛争が始まってから、食料価格の高騰が続いています。以前1kg1500XAF(約320円)だったお肉は、現在、4000XAF(約850円)。食料不足と食品価格の高騰は、子どもたちの栄養状態にも深刻な影を落としています



ユニセフの支援で設置・運営されている仮設小学校も訪れました。「平和教育」にも力が入れられています。民族を超えて仲良くなれることを示す絵が飾られ、平和の歌が歌われていました。武力衝突の巻き添えで両足を切断された子ども、車椅子で授業に参加していました。家から友達に背負ってもらいここまで来るのだそうです



写真: ©日本ユニセフ協会/2014

「この子を見れば治療の成果が分かります」

●人道危機緊急募金●

郵便局(ゆうちょ銀行) 募金口座 振替口座: 00190-5-31000
口座名義: 公益財団法人 日本ユニセフ協会
※通信欄に「人道危機緊急募金」と明記願います。
※窓口での振り込みの場合は、送金手数料が免除されます。

民が流出し、物流が滞っているため、市場で売られている物は高く、一般の人たちにはなかなか手が出ません。子どもたちの栄養不良が増えても不思議ではありません。

治療の成果に笑顔

栄養不良の治療を行う病棟には、重度の栄養不良の子どもたちがたくさんいまし

た。看護師さんたちが笑顔で紹介してくれた子どもがいました。2カ月前、何も食べられず、何も飲めなかった子どもは、今は見違えるほど元気になったと言います。「この子を見れば治療の成果が分かってもらえるわ!」ほんとうに、骨と皮になつていたので、腕はぶくぶくとし、歩いて回れるほど元気になりました。

本来、460万人の人口は飢えるはずがありません。十分に食べていけるだけの資源があるからです。それなのになぜ平和にならないのか? それは自然資源が豊富でも、人的資源に欠けているからに違いありません。子ども

たちが質の高い教育を受けられれば、そして叡智のある指導者が育てば、アフリカの中心にある中央アフリカ共和国は、近隣諸国に良い影響を与えられる国になるはずです。

負った子。特に、家が焼き討ちされて、火傷を負った子どもは、右手と右脚を切断しなければならぬほどひどい火傷を負っているが、切断後に被せる皮膚が不足しているため、しばらく手術ができない状態でした。その姿を見ていただけでいたたまれない気持ちになりました。

紛争で犠牲になった子どもたちに笑顔が戻るまで人的資源の支援を

彼女が住む避難民キャンプ

プの状況は悪く、ユニセフが配布しているビニールシート等を使い、どうにか雨をしのいでいるようでしたが、これから雨期が始まります。ビニールシートだけでは家への浸水を免れることはできません。マリリアも蔓延します。

最後の日にはラクワンガ市場を訪れました。バンギで唯一開いていた市場は、人も物も少なく、閑散としていました。

中央アフリカ共和国 (4月28日現在)



た。紛争が原因でイスラム系の人たちの多くが周辺国に逃げていますが、経済を担っていたのはイスラム系の人たち。彼らがいなくなると国が成り立たないとも言われています。多くのイスラム系住

怖いマラリア

私たちが次に訪れたのは、難民キャンプでした。本当は、より北部に近いカガ・バンドロという街を訪れる予定だったのですが、ユニセフの車が数日前に襲われたため行くことができなくなりました。予定を変えて訪れた街ボサンゴアは、イスラム教徒の人たちがチャドに移動させられた後で、閑散していました。残っているのはキリスト教系の人たちです。10人の子どもの持つ25歳のお母さんノボブ・ホワンペラさんと話をすることができました。「配給で食料を作ったり、木になっているマンゴーをとっては市場で売ったりして、どうにか生き延びている」と言います。育てなければいけない子どもは



バンギ国際空港脇にあるキャンプで暮らす避難民たち。飛行機も物干し代わりに。人々はいらいらし、「家を返してちょうだい!」「食べ物ちょうだい!」と繰り返し叫んでいました



略奪により産科病棟は見ても無残な状態になっていました。カルテなどの大切な記録がなくなったのが何より残念だったと責任者は言っていました



ユニセフが支援する学校。再建を目前に、子どもたちは「早く学校に通いたい」と待ちどわしい様子でした。再開後は1000人が通える学校になります

©UNICEF/NYHQ2011-1686/Pirozzi



夏の暑さを逃れ水遊びをする11歳の男子（ウズベキスタン）。



手押しポンプを使って水を汲むユニセフ親善大使ケイティ・ペリーさん（米国シンガーソングライター）。「学校まで片道歩いて45分。この地域では、教育がどれだけ大事かというのが分かりますね」サイクロンの被害を受けて建て直されたこの学校には、男女別のトイレ、井戸が設置され、子どもたちの健康が守られています（マダガスカル）



©UNICEF/NYHQ2013-1482/GIACOMO PIROZZI

◀トイレのあとに手を洗うソニア・ヴェラちゃん（9歳）。学校のシャワーとトイレは太陽光発電。この村では行政とユニセフが協力し、水道を家庭の裏庭まで引き込みました（ボリビア）

「改善された飲用水源」とは

人糞・牛糞などの排泄物から守られている水源。家庭内に引き込まれた水道、公共の水道、水汲み場、掘削井戸、保護された掘井戸、保護された泉、雨水。

「改善された衛生設備」とは

人の排泄物と人間が接触しないで済むトイレ。下水あるいは浄化槽に繋がっている水洗トイレ（自分で水を汲んで流す方式、換気式トイレを含む）、スラブ付ピットトイレ、コンポストトイレ。

◀進み、こうした地域ではインフラ整備もままならない状態。安全できれいな水は使えず、公共トイレがあったとしても、非常に多くの人たちが使っているので衛生状態は劣悪です。ユニセフは、より多くの人たちに安全な飲み水と衛生的なトイレがいきわたるよう支援を行っています。ミレニアム開発目標は一通過点にすぎません。2015年のミレニアム開発目標の目標達成年度以降も、その努力は地道に続きます。

◇

これから日本でも暑くなり、「水」に目が行くようになります。そんな折り、ふと世界の子どもの状況に思いをはせていただければ、と思います。

©UNICEF/NYHQ2010-1611/Williams



「水」は生命の源——

汲んできた水を運ぶ女の子たち。干上がった川床に穴を掘り、水を汲みます。煮沸しないかぎり、この水は安全な飲み水とは言えません（モザンビーク）

命を支える水と衛生について考える

～安全な水、衛生的なトイレが多くの命を救う～

人は水がなくては生きていくことができません。日本に住む私たちも、夏場に渇水になったり、事故や災害等で断水が起きたりした場合などは困ります。しかし、これらはたいがい一時的なことで終わります。

一方、世界に目を向けると、いつ終わることも分からずに、絶えず水不足に悩まされながら

ら生活をしている人たちがたくさんいます。安全な飲み水を手に入れることができない人は世界で約7億5000万人。衛生的なトイレを使うことができない人は25億人。屋外排泄をする人は10億人もいます。

安全な水を飲むことができない人、衛生的なトイレを使うことができない、手を洗うことができない人たちの多くは、感染症にかかり、重篤な場合は命の危機にさえ晒されます。

ます。下痢性疾患にかかり、毎日1400人の5歳未満児が命を失っています。命にかかわる水と衛生について、データを7ページに集めてみました。これを見ると、都市部と農村部の格差、国による格差が浮き彫りとなります。農村部ではきれいな水を手に入れることができない、衛生知識が乏しいために屋外排泄がまだまだ多く行われています。一方、都市部では人口の大量流入でスラム化が

★2015年以降の課題・2030年までの目標

【ビジョン（最終目標）】

すべての人が安全な飲み水と衛生設備を使えるようにする

2030年までの目標	指数（一例）
・屋外排泄を根絶する	屋外排泄する人の割合（％）
・安全な飲み水を誰もが使えるようにし、家庭、学校、保健施設で衛生的な設備（トイレ）を使えるようにする	改善された水源を使う人の割合。汲む時間は「列に並ぶ時間も含め30分以内とする」5世帯以下で共有するトイレ。必要ときに使えるトイレ。石けんが使える。
・家庭で上手に管理された安全な飲み水と衛生的なトイレを使えない人の数を半分に減らす	安全な飲み水と衛生的なトイレを使える人の割合（％）
・アクセス面での格差を積極的になくす	貧富、都市部・農村部、スラム・正規の居住区、不利な条件のもとにいる人たちの4つの面でデータを集めて比較できるようにする

*この目標と指数は世界中の60以上の組織から100人以上の人が、3年をかけて討議した上で設定したものです。

原典：WASH TARGETS AND INDICATORS POST-2015 updated April 2014; WHO/UNICEF Joint Monitoring Programme (JMP) for Water Supply and Sanitation

●アフリカ干ばつ（ソマリア干ばつ含む）緊急募金● 2014年5月26日までに、12億1074万5902円が寄せられています。みなさまのご支援に感謝申し上げます。

Volvic

「マリ」水供給プロジェクト あなたの1リットルが 誰かの10リットルに

●支援プロジェクト報告①

©日本ユニセフ協会

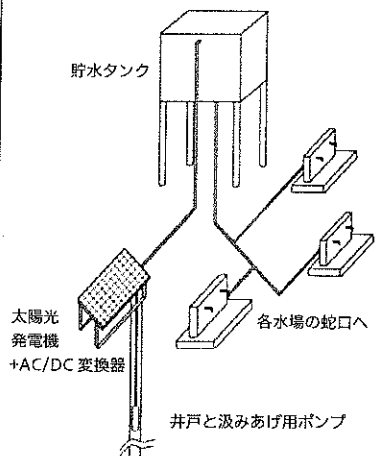


ソーラーパネル付きの給水設備で水を汲む人びと

アフリカの西部に位置するマリ。人口のおよそ半数は貧困ライン以下の暮らしを余儀なくされ、農村部では2人にひとりしか清潔で安全な水を利用することができません。不衛生な水が引き起こす下痢やメジナ虫症※、コレラやトラコーマ（慢性結膜炎）といった病気は、幼い子どもが命を落としたり、不自由な生活を強いられる大きな要因となっています。

安全な水の普及により長年マリの人々を苦しめてきたメジナ虫症も根絶間近となっています。安全な水は下痢などの病気を減らすだけでなく、子どもたちが学校に通い友達と遊ぶ時間を生み、武力紛争で傷ついた生活を立て直す基盤ともなっています。

●建設されているソーラーパネル式の給水設備の仕組み



Clip Memo ※メジナ虫症

寄生虫病の一つ。メジナ虫の幼虫やその卵を持ったケンミジンコに汚染された水を飲むことで感染する。メジナ虫は人の体内で成長し、大きいもので1m近くにもなる。体内を移動するため激しい痛みを伴い、最後は皮膚を破って外に出てくる。治療薬や予防ワクチンはない。衛生面の改善や教育活動により各地で感染は減り、現在患者の発生が報告されているのは、チャド、エチオピア、マリ、南スーダンの4カ国のみ。

©UNICEF/Mali/2013/Dicko



水場がない、男女別の衛生的なトイレがないといった環境は、感染症のリスクを高めると同時に、思春期の女の子を学校から遠ざける一因にもなります。学校の水とトイレが改善されると、女の子の通学率も上がります。

「マダガスカル」水と衛生プロジェクト TAP PROJECT JAPAN 2014

●支援プロジェクト報告②



©日本ユニセフ協会

アフリカ南東の島国マダガスカルは、多様な自然環境に恵まれた国ですが、一方でサイクロンなどの自然災害も多く、水と衛生に関する指標は世界でも5番目に悪い値を示しています。5歳未満児の死因の上位には水に深く関係する下痢や肺炎が並び、全国約2万5000校の小学校のうち、安全な給水設備がある学校はわずか18.9%にすぎません。

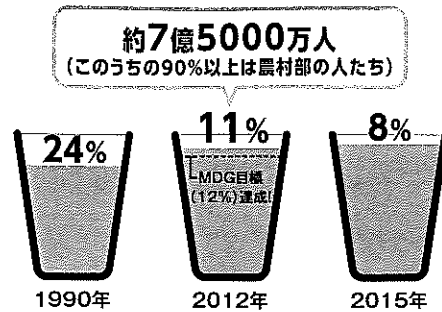
およびトイレの整備を支援しているのが「TAP PROJECT JAPAN」です。「きれいな水を、世界の子どもに。」を合言葉に、レストランやカフェでサービスされるお水に対し募金の協力をお願いするキャンペーンが、今年も8月の1カ月間、全国のレストランやカフェで実施されます。プロジェクト参加店は「TAP PROJECT」のホームページ（tapproject.jp）を確認いただけます。ぜひ来店の上、ご協力ください。また、プロジェクト参加店も随時募集しています。

●募金のご案内● 「マリの水」、「マダガスカルの水と衛生」、どちらのプロジェクトにも直接募金をお寄せいただくことができます。郵便振込み（口座番号：00190-5-31000 加入者名：（公財）日本ユニセフ協会）窓口での振込みは手数料免除。通信欄に「マリの水」あるいは「マダガスカル水と衛生」とご明記ください。ご協力、ありがとうございます。

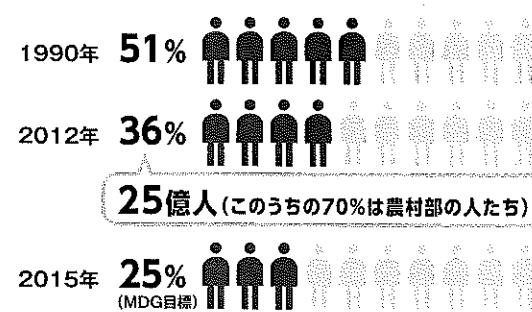
命にかかわる水と衛生

ACCESS TO WATER & SANITATION

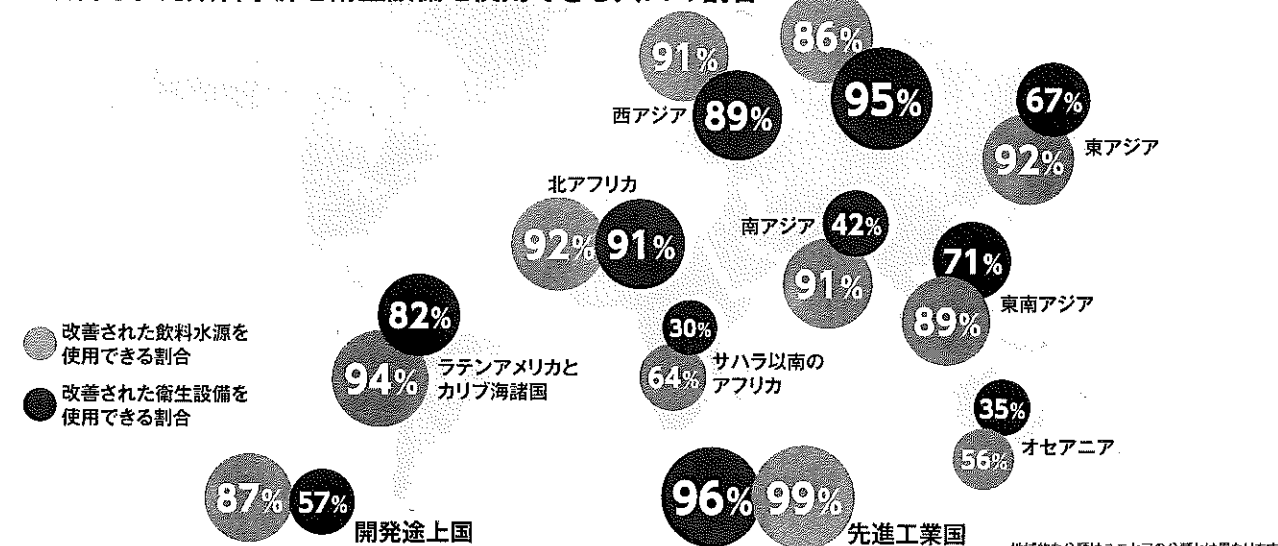
■改善された飲料水源を使えない人の割合



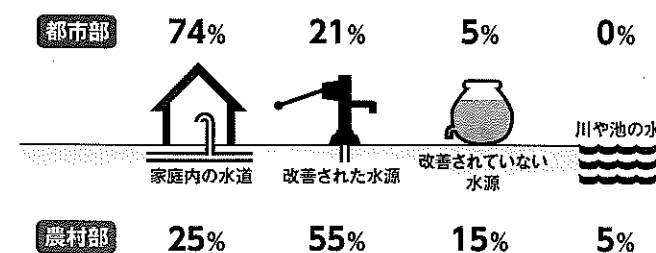
■衛生的な設備(トイレ)を使えない人の割合



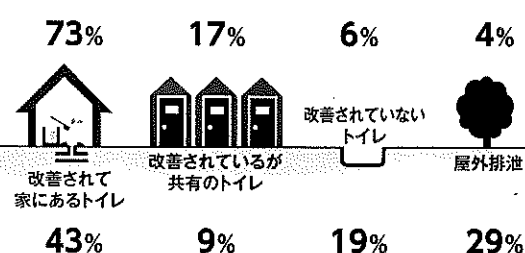
■改善された飲料水源と衛生設備を使用できる人口の割合



開発途上国 ■どのような水源を使っているか



■どのようなトイレを使っているか



出典：Progress on Drinking water and Sanitation 2014 update by WHO and UNICEF



©UNICEF/NYHQ2008-1621/Pirozzi

Clip Memo 世界が誓った

4月11日、水と衛生に関するハイレベル会合が米国の首都ワシントンで行われ、衛生的なトイレが使えない推定25億人、安全な飲料水が手に入らない推定7億人あまりの状況改善のため、260を超える具体的な行動計画を設定し、50を超える国々の代表は、目標達成のために努力することを約束しました。